



アドビシステムズ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー 19F

アドビシステムズ社、 Adobe Scene7 プラットフォームをアップデート モバイルデバイスでのリッチメディア体験の向上と Creative Suite および Omniture テクノロジーとの統合を実現

リッチメディアコンテンツの作成と多様なデバイスと画面への リッチメディア配信を、さらに効率化する新機能を搭載

【2010年11月8日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発（2010年9月28日）Adobe Systems Incorporated（Nasdaq：ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビシステムズ社）は、クロスメディア配信プラットフォーム、Adobe® Scene7® のアップデートを発表しました。Adobe Scene7 を利用することで、リッチなモバイル体験やデータ駆動型の動的バナーなどを最適化し、配信することができます。Adobe Scene7 は、特別な知識がなくても扱えるようになっており、モバイルデバイス^{*1} など、さまざまなデバイスの画面を対象としたエンドツーエンドの動画配信機能も搭載され、すべての顧客接点に動画を配信できるようになりました。

今回のアップデートでは、Adobe Scene7 と Adobe Creative Suite® 5^{*2} との統合もでき、ワークフローの効率化が行われています。また、ウェブ解析ツール Adobe SiteCatalyst®, powered by Omniture® と A/B・多変量テストとターゲティングのツール Adobe Test&Target™, powered by Omniture と統合することにより Web サイトの解析や最適化を自動的に行えるようになりました。さらに、Web-to-Print（ウェブ to プリント）アプリケーションを簡単に開発するための Solution Accelerator のキットも含まれています。

アドビシステムズ社プロダクト マーケティング担当シニアディレクターのシーラ ダルグレン（Sheila Dahlgren）は、「モバイル チャンネルの急速な拡大に伴い、マーケティング担当者は顧客とのコミュニケーションが必要な新たなメディアへの対応に迫られています。しかし、このような担当者の多くにとって、複数のマーケティング チャンネルに対して異なるコンテンツを作成して配信する十分なリソースを確保することは困難です。Adobe Scene7 プラットフォームを使えば、リッチで動的なコンテンツを一度作成すれば、複数のデバイスや画面に容易に展開することができるようになります。また、今回のアップデートでは、ウェブ解析と最適化機能が組み込まれました。マーケティング担当者や e- コマース部門の管理者は、リッチメディアを従来よりもはるかに効率的に活用できるだけでなく、コンテンツ配信コストを大きく引き下げられるでしょう。」と述べています。

モバイルデバイスやマルチスクリーンに最適化されたリッチメディア エクスペリエンス^{*1}

今回のアップデートで、Adobe Scene7 は新たにモバイル リッチメディア ビューワーに対応しました。これにより、モバイルデバイスや、さまざまな画面といった多様な配信先に対して、すばらしいユーザー体験を向上する動画など、リッチメディアコンテンツを手軽に配信できるようになりました。従来は、デバイスごとにコンテンツを開発する必要がありましたが、新しい Adobe Scene7 なら一つのプラットフォームでコンテンツ作成から、管理、配

信まで行うことができます。リッチメディアをデスクトップから双方向ディスプレイ、モバイルデバイスといった複数のチャンネルに配信する際の手間やコストが軽減されました。

新機能には次のものが含まれます。

- 動的な画像サイズの調整：ひとつのセット画像を作成すれば、複数のデジタルチャンネル（Web、ソーシャル、印刷媒体、e-メール、モバイルデバイス）に応じて、画像のサイズ、フォーマット、解像度を自動的に調整します。ユーザーは、利用しているデバイスに最適化されたリッチコンテンツを体験でき、配信側は、制作に必要な時間とコストを大きく引き下げることができます。
- Adobe Flash® Player 互換・非互換の両方に対応したフルスクリーンズームビューワー：さまざまなスタイルの画像、画像セット、色切り替えセット、複数のビューセットを活用したコンテンツを、多様なモバイルデバイス上で表示。マルチタッチやジェスチャーベースのインターフェイスにも対応しています。
- さまざまな画面に対応した、エンドツーエンドの動画配信：動画をアップロードおよび、Flash Player 互換あるいは非互換の形式にエンコードすることが可能になりました。モバイルデバイスやデスクトップ、双方向ディスプレイに対して、動画を配信できます。
- Flash Player 互換のフルスクリーン動画：デバイス上の既成ビューワーで動画コンテンツの再生とストリーミングが可能になりました。

英国有数のオンラインおよびホームショッピング小売企業である Shop Direct の e- コマース部門担当ディレクター、ニール プリース (Neal Preece) 氏は、「Adobe Scene7 プラットフォームは、お客様にリッチなショッピング体験を提供するうえで極めて価値あるソリューションです。新しいエンドツーエンドのワークフローによって、当社のモバイルアプリケーションに動画を導入し、リッチな体験をさらに拡大すると共に、ショッピングの場所にかかわらずお客様と密接なつながりを作り出すことが可能になりました」と述べています。

特定の顧客に向けた販促向けの動的バナー

今回のアップデートには、Scene7 Dynamic Banners も含まれます。この機能により、テンプレートを利用してコンテンツを一度作成すれば、環境ごとに異なるさまざまなバナーを活用することができるようになります。これにより、.FLV フォーマットで作成された動画などのアニメーション付きバナーを配信することができ、マーケティング担当者は、顧客ごとにコンテンツを作成、修正、配信する時間とコストを削減できるようになりました。製品、販促、CRM などのデータベースを使用して、バリエーションに富んだテンプレートをリアルタイムで作成することができ、訪問者ごとに異なったバージョンのバナーを用意する必要がなくなりました。これにより、ソースファイルの編集や複雑なコードの変更、あるいは手作業でのバナーの更新といった面倒な作業にリソースや時間を費やす必要がなくなりました。

Adobe SiteCatalyst と Adobe Test&Target によるリッチメディア配信の最適化

Adobe SiteCatalyst を Adobe Scene7^{※3} と統合することにより、SiteCatalyst のライセンスを持つユーザーであれば、リッチメディアによるビューワー イベント（製品のビュー、製品のズーム、色切り換えによるビュー、動画によるビュー）を、Adobe Scene7 プラットフォーム内から直接 Adobe SiteCatalyst レポート内変数にマッピングできるようになりました。こ

れによりマーケティング担当者は、訪問者がそれ以降にたどる経路を判断し、サイトでの滞在時間や購入活動、その他のコンバージョン イベントなどの行動に対して、リッチメディア配信が、どのように影響するかをさらに理解できるようになりました。

Adobe Test&Target も Adobe Scene7^{※3} との統合が可能になり、サイトやキャンペーン内容を Scene7 のリッチメディア コンテンツで最適化することができます。Adobe Scene7 と Adobe Test&Target、両方のソリューションのライセンスを持つマーケティング担当者は、訪問者の体験を自動的にリアルタイムでパーソナライズできるようになりました。Adobe Scene7 の画像または動画テンプレートを使えば、訪問者のプロフィール パラメータやサイトでのそれまでの活動内容に応じたリッチなコンテンツを A/B テストあるいは多変量テストキャンペーンに配信することができます。テキストや動画を含むリッチなビジュアル要素を組み合わせたクリエイティブやプロモーションを Scene7 Publishing System で直接作成し、それを Adobe Test&Target^{※3} 内で即座に利用できるため、新しいキャンペーンを手作業で作成する必要がなくなりました。

「Omniure テクノロジーをベースとした Adobe Online Marketing Suite に Adobe Scene7^{※3} 内から直接アクセスできるようになりました。アドビ システムズ社の使命である、動的コンテンツの作成、管理、最適化を行うと同時に、オンライン キャンペーンの測定やパーソナライズも行える、より完全なソリューションの提供が実現しました」とダルグレンは述べています。

Creative Suite 5 との統合によりデスクトップから Web へのワークフローを効率化

Adobe Scene7 プラットフォームでは、新しい Creative Suite 5 Extension によりワークフローがさらに効率化されています。Creative Suite 内から Scene7 のデータをリアルタイムで閲覧、アップロード、ダウンロード、管理、編集、更新できるようになりました。これによりデスクトップ アプリケーションとオンライン上のサービスの間を行き来する必要がなくなり、より効率的で生産的なユーザー体験が実現しました。ユーザーは、Scene7 によって作成された Web 用バリエーションを、Creative Suite 内から表示できます。

アプリケーション開発を簡単にする Web-to-Print Solution Accelerator

印刷物（ローカライズされたマーケティング資料、グリーティングカード、ステーションナリー、写真製品など）のパーソナライズを行うためのソリューションが、Web-to-Print です。Scene7 に新しく搭載された Web-to-Print Solution Accelerator を使えば、Scene7 の可変データ テンプレートから、これらのリッチで魅力あるフロントエンド アプリケーションを容易に構築および展開することができるようになります。Adobe Flex[®] オープンソース フレームワークによって構築された、設定済みのサンプル アプリケーションも用意されていますから、Scene7 の Web-to-Print アプリケーションを Web サイトに組み込むのも簡単です。この Solution Accelerator を活用すれば、Flash による画期的なテキストエディターを開発者自身の Web-to-Print クライアント アプリケーションに組み込むことができます。これによりサイト上でのリッチテキストの編集や設定がさらに改善されます。

^{※1} 現在日本の携帯電話には対応していません。

^{※2} Creative Suite 5 Extension は Adobe Creative Suite 5 と共に動作します。Creative Suite 5 の機能を使用するには別途ライセンスが必要となります。

※³ Adobe SiteCatalyst と Adobe Test&Target は、アドビ システムズ社のオムニチュアビジネスユニットが提供するサービスと共に動作します。この連携機能を Adobe Scene7 内で利用するには、SiteCatalyst および Test&Target のユーザー契約が必要です。

提供予定

Adobe Scene7 プラットフォームのアップデートは英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、スペイン語の 6 か国語で提供されます。日本語の提供は、2010 年 11 月中旬を予定しております。詳細については www.scene7.com/jp をご覧ください。

Adobe Scene7 について

クロスメディア配信プラットフォームである「Adobe Scene7」は、Web、e-メール、印刷媒体、モバイルデバイスを含む、あらゆるチャネルに対して動的コンテンツを配信するためのソリューションです。Scene7 を通じて、企業は顧客誘引から適切な商品やサービスへの誘導まで、販売とマーケティング サイクル全体を改善することができます。これによりサイトを訪れた顧客は、ロイヤルティの高い購入客に変わることができるでしょう。Scene7 はマスター画像から無限のバリエーションを動的に生成および配信するために最適化されています。そのため、企業は、販売するまでの期間を短縮し、コストを大幅に引き下げる事が可能になります。動的メディアの管理、拡張、配信向けソリューションは、Scene7 Publishing System (Scene7 パブリッシングシステム)、Media Portal (メディアポータル)、Dynamic Imaging (ダイナミックイメージング)、Dynamic Banners (ダイナミックバナー)、eCatalogs (e カタログ)、eVideos (e ビデオ)、Visual Configurators (ビジュアルコンフィグレーション)、Web-to-Print (ウェブ to プリント)、Web & Social (ウェブ&ソーシャル)、Email & Print (e メール&プリント)、Mobile & Multi-Screen (モバイル&マルチスクリーン) から構成されています。Adobe Scene7 ソリューションは、QVC、Harrods、Macy's、Office Depot、Polo Ralph Lauren、La-Z-Boy、Blockbuster、VF Corporation、Levi Strauss & Co. をはじめとする大手企業に採用されています。Adobe Scene7 の詳細については www.scene7.com/jp をご覧ください。

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーの、アイデアや情報との関わり方に変革をもたらしています。アドビ システムズ株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイトに掲載されています。

Adobe, the Adobe logo, Creative Suite, Flash, Flex, Omniture, Online Marketing Suite, Scene7, SiteCatalyst, and Test & Target are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated, in the United States and/or other countries.

© 2010 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.